

森の力再生事業で搬出した木材の活用状況

(森林・林業局 森林計画課)

1 要旨

森の力再生事業における木材搬出は、作業車道の開設に伴う義務的な搬出が多い。
また、搬出した木材の利用について調査した結果、合板用の割合が高く収益性は低いことが伺えた。

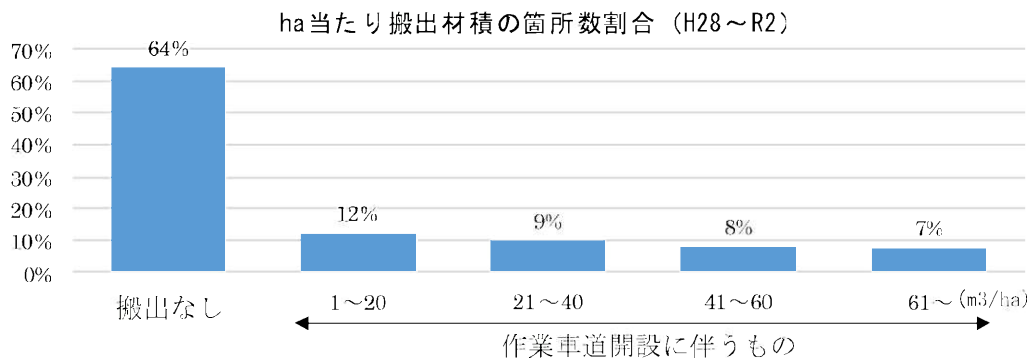
2 搬出材積等

(1) 調査方法

過去5年間(567箇所)の整備箇所ごとに、搬出材積等を調査

(2) 調査結果

- ・搬出が出来なかった箇所が6割を超えていた。
- ・搬出した木材の多くは、作業車道（労働強度の低減を目的に設置される3m程度の道）の開設に伴うもので、要領に定める義務的な搬出によるものであった。



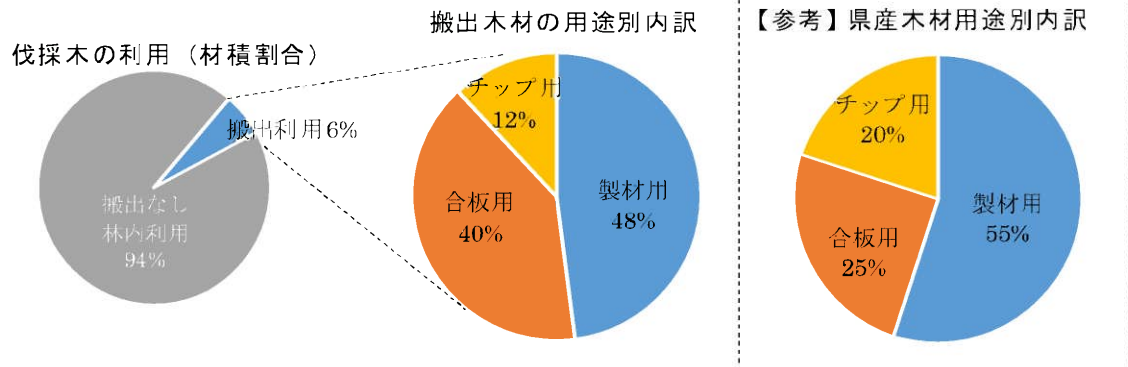
3 木材利用

(1) 調査方法

令和2年度の森の力再生事業で木材を搬出した整備箇所のうち、農林事務所ごとに搬出材積が最も多い箇所とha当たりの搬出量が最も多い箇所を13箇所選定し、利用方法(材積)について整備者に聞き取り調査を実施した。

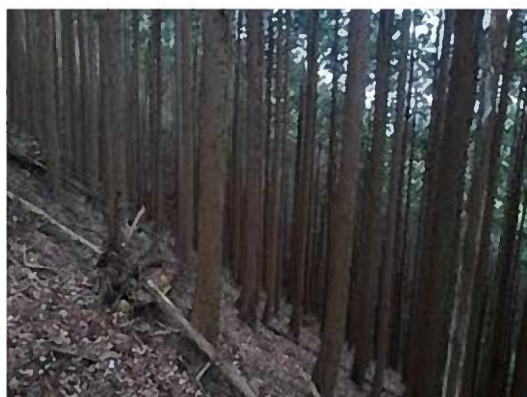
(2) 調査結果

- ・木材の利用方法は製材用と合板用がほとんどで、材価の低いチップ用材は搬出しても赤字になる可能性が高いことから活用は少なかった。
- ・手入れ不足の森林からの搬出されるため、県産木材の一般的な用途内訳と比較すると、製材用の割合が低く、合板用の割合が高くなり収益性は低いことが伺えた。



<参考1> 森の力再生事業における木材搬出箇所の状況

【伊豆市豆柿木 (R2)】



整備前



整備後

<参考2> 森の力再生事業と他の森林整備事業における木材搬出の状況

【森の力再生事業】



手入れ不足の森林から搬出するため、丸太の太さにばらつきが大きく、細い丸太が多い。

【林野庁補助事業 (TPP 事業)】



手入れが継続して実施された森林から搬出するため、丸太の太さのばらつきは小さい。